

豊かな情感を響かせ、情熱的な演奏を魅せる！  
本場チェコの名門オーケストラが  
名曲を奏でる！

# チェコ国立ブルノ フィルハーモニー 管弦楽団

Brno Philharmonic Orchestra

響き渡るスラヴの魂！

透明感溢れる弦の音色に酔いしれる。

ロン=ティボーの覇者サイズによるチャイコVn協奏曲！

指揮：アレクサンダー・マルコヴィッチ

スメタナ **交響詩「わが祖国」**より “ボヘミアの森と草原から”

チャイコフスキー **ヴァイオリン協奏曲** 二長調 作品35

チャイコフスキー **交響曲第6番** 口短調 作品74 **「悲愴」**



フレデリケ・サイズ(ヴァイオリン)

2005年ロン=ティボー  
国際音楽コンクール優勝

2011年9月18日(日) 15:00開演(14:30開場)  
岐阜県多治見市文化会館大ホール

主催/多治見市文化会館 (TEL. 0572-23-2600 火曜日休館)

JR多治見駅北口から徒歩10分。中央自動車道多治見ICより10分。

東海環状自動車道土岐南多治見ICより15分(駐車場176台)

※ご来場の際は、できる限り公共交通機関をご利用下さいませようお願い申し上げます。

全席指定(税込)

S席 9,000円  
(club会員 8,000円)  
A席 7,000円  
B席 5,000円

発売開始

たじともclub 6月18日(土)午前9時から  
会員先行発売 会館窓口のみ  
一般発売 6月19日(日)午前9時から  
会館窓口  
午前10時から  
チケットぴあ (TEL 0570-02-9999) Pコード:131-279  
ローソンチケット(TEL 0570-084-004) Lコード:48857  
e+(イープラス) <http://eplus.jp/> (パソコン&ケータイ)

※未就学児の同伴・入場はお断りします。

※託児サービスあります(有料/公演日の1週間前までの申込制) 詳しくはお問い合わせ下さい。

※たじともclub会員制度については、多治見市文化会館までお問い合わせ下さい。

# ブルノ・フィルが奏でる、魂を込めた音の響き!

## 中欧の名門オーケストラの圧倒的な音楽の造形美をお楽しみ下さい。

スラヴ人の心は、スラヴ人に聞け—豊かな自然と素朴で優しい人たちに思いを馳せる「郷愁」、幾多の困難を乗り越えてきた「芯の強さ」、それでいて日々の暮らしの中に溢れる「生きる喜び」、そして甘く切ない「哀愁」—中欧、東欧、そしてロシアの大地へと連なる国土に暮らす人々だけがその真の意味を知っている。

2007、2009年と立て続けの来日公演で、音楽を通じて「スラヴ人の心象」を鮮やかなまでに描き出したチェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団が2011年初秋、再び来日する。楽譜に込められた作曲家の思いを見事に奏で、私たちの心を揺さぶり、時に落涙させた、情熱の演奏が再び帰ってくる。

今回のプログラムは、美しい風景が眼前に広がるようなスメタナの交響詩「ボヘミアの森と草原から」、哀感と情熱に満ちたチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲。そして同じくチャイコフスキーの、最後にして最大の傑作である交響曲第6番「悲愴」。スラヴの風土の中で育ち、スラヴの魂を持ったブルノ・フィルハーモニーが最も得意とする作品ばかりだ。

チェコは「弦の国」。世界的にその力は認められて、その演奏・音色の素晴らしさが讃えられてきた。ブルノ・フィルハーモニーの弦楽器奏者は、柔らかく人間味溢れた音で作品に血を通わせ、素晴らしい演奏を聴かせてくれる。また、管楽器奏者の音楽性・技倆の高さも過去の日本ツアーで多くの人が感心したところだ。

指揮は2009-10年シーズンより首席指揮者を務めるアレクサンダー・マルコヴィッチ。2008年にブルノ・フィルと初共演した際、その実力を見込まれて、30代半ばにして現在のポストに就いた期待の指揮者。そして、今回のゲストソリストとして、ヴァイオリン独奏に迎えられたフレデリーケ・サイスは、2005年のロン＝ティボー国際音楽コンクールの覇者であり、今ヨーロッパで注目されている俊英だ。この二人とともにブルノ・フィルハーモニーが聴かせるチェコ・ロシアの名曲は、私たちに音楽の持つ「力」を再認識させてくれるに違いない。

### ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団 Brno Philharmonic Orchestra

ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団は、作曲家ヤナーチェクによって設立され、20世紀後半のブルノのコンサート史における中心的役割をなしている。多くの室内アンサンブルや合唱団を持ち、国際的な評価を得ている。

ブルノ・フィルは1956年以降700回以上のコンサートをヨーロッパ中心に行っている。ヴァチカンでローマ法皇のためのコンサート(2000年)や、トヨタクラシックス(2004年)、ドイツのラインガウ音楽祭(2005年)にも出演し、2006年にはウィーンの楽友協会で行い高い評価を得た。

カレル・アンチェル、チャールズ・マッケラス、クルト・マズア、ユーディ・メニューイン、シャルル・ミュンシュら、多くの世界的な指揮者が指揮をしている。またスヴァトスラフ・リヒテル、イエフィム・プロンフマン、ヴィルヘルム・ケンプなど一流のソリストたちと共演している。

チェコ国内では、年間約40回のコンサートを開き、同時にヤナーチェク劇場で開催されるコンサートシリーズにも参加している(年間約25回)。また、毎年ブルノ国際音楽祭に出演し、「ブラハの春」フェスティバルにも定期的に参加している。ベルリン、ミュンヘンなどの音楽祭にも参加し、高い評価を得ている。



〈指揮〉

アレクサンダー・  
マルコヴィッチ

Aleksandar Marković

ウィーン音楽大学の舞台芸術科のレオポルト・ハーガーの下で指揮を学び、ジャンルイジ・ジェルメッティ、ローター・ツァグロゼクに師事する。ヘルベルト・フォン・カラヤン財団からスカラシップ授与。2003年にポーランドで最も権威あるフェティルベルク国際指揮者コンクールで優勝。2005～2008年にチロル州立劇場において首席指揮者を務めた。2008年11月にブルノ・フィルハーモニー管弦楽団との共演を果たし、その直後に楽団の首席指揮者の座についた。

最近ではベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、スコットランド室内管弦楽団、ベルリン交響楽団、ウィーン交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ブラハ交響楽団、ブラハ国立歌劇場管弦楽団などヨーロッパの主要なオーケストラを指揮している。



〈ヴァイオリン〉

フレデリーケ・  
サイス

Frederieke Saeijs

1979年オランダ生まれ。7歳でヴァイオリンを始める。1992年オランダ・ハーグ音楽院の特別クラスに入学。1998年デン・ハーグ王立音楽院に入学し、学士・修士の称号を得た。

クリスティーナ王女コンクール第1位、ジョルジュ・エネスク国際ヴァイオリン・コンクールで受賞。2004年よりアメリカのジェイコブズ音楽院でマウリシオ・フックスに師事。2005年には、フランス・パリで開催されたロン＝ティボー国際音楽コンクールにおいて優勝を果たす。

以後、フランス、ドイツ、イタリア、日本、アメリカなどで活躍。フランス国立管弦楽団、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー管弦楽団などと共演する。最近ではサントリーホールで行われた日蘭二大オーケストラ(指揮:小林研一郎) 日本フィルハーモニー交響楽団&オランダ・アーネム・フィルハーモニー管弦楽団の合同演奏会にソリストとして出演した。

ご注意とお願い

- 会場内における飲食、喫煙はご遠慮下さい。
- 写真撮影、録画、録音等は禁止させていただきます。
- 未就学児童のご入場はお断りいたします。
- 開演後のご入場は制限させて頂く場合がございます。
- 出演者等は変更になる場合がございます。予めご了承ください。